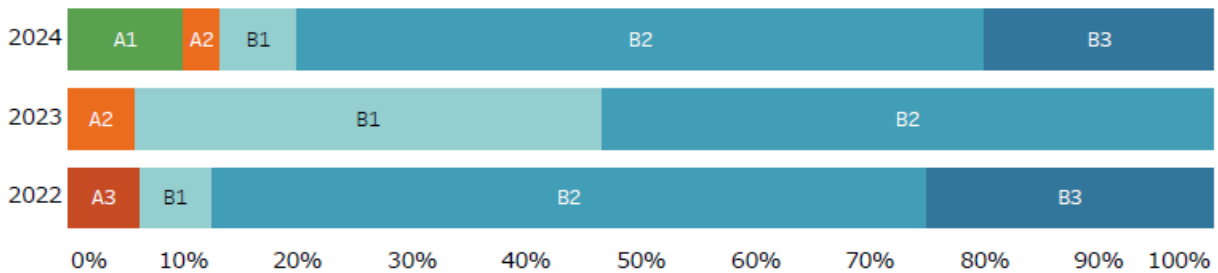


2024年 駒場東邦 算数

過去3年の思考コード別出題割合は次のようになります。大問4題構成は変わっていませんが、2023年と比べて、B2、B3レベルの問題が増え、難度が大幅に上がった印象を受けました。ここ数年出題されていた立体がなく、2023年より前に頻出だったハードな「調べる問題」が再び登場しました。調べる作業に手間取った受験生も多かったと思います。また、今年は作図の問題はありませんでしたが、解くために作図が必要な問題はありました。定規、コンパスは必携となります。



大問1は、例年通り一行題の構成でした。(1)は、2024を題材とした問題が出題されましたが、不定方程式を利用した形だったため、出鼻をくじかれた受験生も少なからずいたと思います。11と23が互いに素である点に注目すると、 $11 \times 23 + 23 \times 77$ 、 $11 \times 46 + 23 \times 66$ 、…と調べていくことができます。焦らず落ち着いて得点したいです。(2)は①の考え方を利用します。(2)は、時計算でした。駒東志望者にとっては落とせない問題となります。(3)は、タイルを並べる場合の数の問題でした。2022年では「マスの塗りつぶし」でしたが、同じく図形に関する場合の数が今年も出題されていました。2022年と同じく、かなり手間がかかるため、ここで手こずって時間をロスした受験生も多かったと思います。①だけ取ればよいと思います。(4)は、正三角形の相似比を利用した問題でした。BAとFDを延長した交点を頂点とする大きい正三角形に注目します(①は、BFに平行な直線をAから引いて考えます)。全体の中では比較的得点しやすい問題と言えます。大問2は、正十一角形を題材にした平面図形でした。コンパスで作図をしてアの外側を捉えていきます。(1)、(2)は得点しておきたいです。

大問3は、規則を利用して調べる問題でした。(1)は確実に得点します。(2)は(3)にも影響するため、もれや重複なく正確に調べる必要があります。正方形の1辺が2、4、6、8cmの4種類ができるため、それぞれの個数を求めます。(3)は(2)で考えたことを利用して、正方形内部につくることができる正方形の種類を調べます。種類を捉えることができても、すべての個数を求めるのはかなり厳しいと思います。(3)②は見送ってもよいかもしれません。大問4は、平方数の和と三角数の和を利用した問題でした。大問4にたどり着くまでに、前半の調べる問題でかなり手間取った受験生が多かったと思います。(1)まで取れていけばよいと思います。

手間のかかる調べる問題が複数あって、かなりハードルが上がった印象を受けました。一行題も含めて、どれも厳しい問題が並びます。調べる力、数を捉える力、立体を把握する力の練成は不可欠です。あくまでも予想ですが、大問1(3)①②、大問3(3)②、大問4(2)(3)を落としたとしても、およそ7割程度には達することができると思われれます。